

早朝出勤、長時間拘束、再度乗務など車掌の負担は大きく



【鹿児島から一人参加した西原議長の音頭で「団結ガンバロー」】

総会は、田原事務長の熊本地震に対する御見舞の言葉で開会し、議長に川崎さん(博多)を選出して議事を進行。

九州本部真子委員長は、国労結成70周年の取り組みや勤務制度改革の問題点、意識の低下につながる高齢者の賃金低下、組織の拡大・強化にふれ、職場集会所が開催されていない現状に組合員が集まる場を作っていこうと挨拶。

鹿児島から参加した西原協議会議長は、5本の列車を乗り継ぎ6時間かかった震災の現状を報告し、結束の必要性を訴えた。

討論では、職場での組合新聞やチラシ配布などの組合活動につ

いて(門司・工藤)、ダイヤ改正で増えた早朝出勤や年休に関わる問題、組織拡大について(博多・萩原)、1月の大雪で発生した輸送障害での会社側の対応や出勤者に対する現場の対応について(長崎・上之濱)、退職のきつかけ、臨時雇用となっている現状や仕事の内容について(木寺前書記長)、ロッカーへのピラ入れの難しさ、ダイヤ改正から椅子の反転が無くなった事や超勤の支払いについて(門司・野上)、九州労組組合員が脱退した唐津の現状や風で列車が遅れた時の乗務について(唐津・実松)、今年度から積立休暇が嘱託に引き継がれる事になった交渉経緯を評価(門司・原田)、嘱託での低賃金での労働と休みが取れない現状について(門司・高橋)、狭くなった肥前山口の休憩所の改善と職場の要員配置について(長崎・秀島)などの発言があった。

真子委員長は、今日出された問題を今日で終わらせてはいけません。今日の総会で出された問題を糧に頑張っていこうと集約した。

国労九州JR車掌協議会第23回総会が4月26日、佐賀県武雄市『ニューハートピア』で開催された。JR九州の車掌職場の組合員と関係者約30人が参加。なお、熊本地震の影響で鹿児島と宮崎の車掌区所の組合員9人が参加を見送った。

安心して働ける職場を目指そう

車掌協議会総会

「何らかの手段で」とは？ 災害時の通勤手段を討論



【12日の集会、長崎事務所】

平成28年ダイヤ改正後の問題を検証するため12日と13日、長崎事務所で組合員集会所が開催された。2日間でのべ20人が参加した。

始めに、「雪害時の対応及びインシデントについて」(国労長崎申6号)の交渉経過を宇都宮業務部長が報告。4月の熊本地震発生時に出勤者の通勤に活用されたかを検証。

ダイヤ改正後の問題では、ホームの乗車位置案内の剥がれや新駅設備の進捗状況など駅関係、ホームのかさ上げや車両の設備などに車掌関係、ワンマン列車のミラーやドアの取り扱いなど運転士関係と共通項目に分けて討論された。20日頃までに集約の予定。